

将来的に統合方針

男鹿海洋高 男鹿工業高

男鹿海洋高校（船木和則校長、130人）と男鹿工業高校（高橋周也校長、243人）は18日、両校3年生による課題研究の合同発表会を男鹿市民文化会館で開いた。両校は第7次県高校総合整備計画の後期計画（2021〜25年度）で将来的に統合するとの方針が示されており、統合を見据えて互いの学習活動を知ろうと初めて企画。両校の全校生徒ら約400人が参加し、双方の研究結果を理解を深めた。

男鹿工業高電気電子科の生徒5人は「洋上風力発電の研究」をテーマに発表。全国に先駆けて本県で洋上風力発電事業が進められている現状を説明し、事業に参画している企業へ実施したアンケート結果を発表した。「地元の高校生の採用、インターシップ受け入れの予定は

あるか」「風車のメンテナンスに携わる場合、どのような資格が必要か」など12の質問に対する回答を紹介し、「各社は雇用創出や地域経済活性化、地元企業や地元人材などを強調していた」とまとめた。

男鹿海洋高海洋科の生徒8人は「男鹿周辺海域におけるマイクロプラスチック調査」と題して発表。海洋ごみによる環境汚染が男鹿の海でも起きているのか、近隣の海底の砂や岩場の海藻、沖合の潮目の漂流物を採取し調査した。

その結果、海底の砂や岩場の海藻からはプラスチック片は発見されなかったが、海上で漂流していた海藻からはプラスチックの繊維を確認したと説明し

た。「ごみに対する意識を高める必要があればいけない」と呼びかけた。

課題研究、合同発表会

発表を聞いた男鹿海洋高3年の榎山悠々さん(18)は「洋上風力関連など共通する部分もある



男鹿海洋高と男鹿工業高の学習内容に理解を深めた課題研究合同発表会

©秋田魁新報社

けれど、男鹿工業高のものづくりの成果を聞くとき、私たちとは違う知識や技術を勉強しているんだと改めて感じた。統合したらどのような学校になるのか楽しみ」と話した。

(藤原剣)